

# 超党派が原発対策会合

## 自・公・みんな40人出席

東京電力福島第1原発事故への対応を検討する超党派国会議員による「原発対策国民会議」が20日、衆院第1議員会館で初会合を開いた。講師の専門家は原発施設をコンクリートなどで覆う「石棺化」の必要性を訴え、参加議員は政府の初動の遅

れを批判した。

自民党の村上誠一郎

衆院議員(愛媛2区)

ら野党51人が会議発足の呼び掛け人で、同日

は自民、公明党、みんな

の党から衆参両院の

約40人が出席した。

会合では、旧科学技

術庁第1種放射線取扱

主任者の佐藤暁氏が、

放射性物質の拡散を防

ぐため、旧ソ連・チェ

ルノブイリ原発のよう

な「石棺化」を提言。

東電が発表した工程表

では格納容器に注水し

冷却を進めるとしてい

るが「冷却をしなくて

も石棺化はできる」と

し、早期の方針決定を

求めた。

また、小中学校など

では線量計などの放射

線測定機を導入し、汚

染状況を正確に把握、

対策を取ることが効果

的と話した。

村上氏は会合後、「エ

ネルギー政策上、日本

に原発は必要。情報を

もっと開示して地域住

民の理解を得られるよ

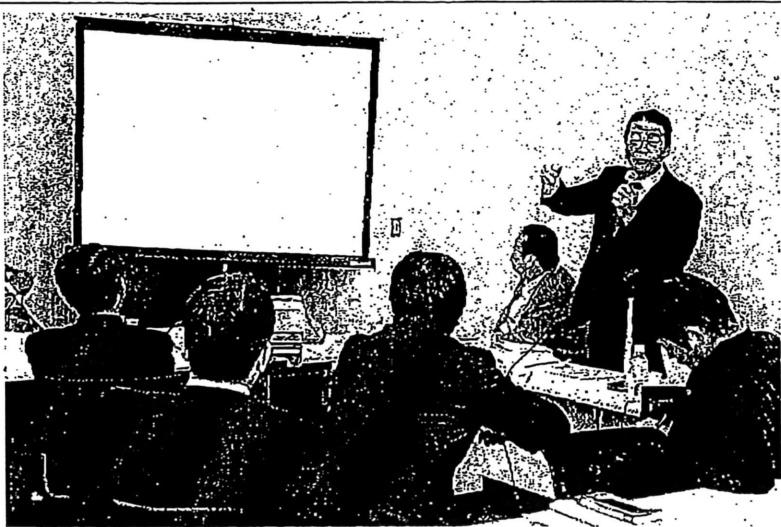
うに努力しなければな

らないが、今の政府、

東電のやり方は秘密主

義だ」と問題視した。

(和泉太)



福島第1原発事故の対応などを議論した超党派国会議員による「原発対策国民会議」の初会合  
—20日、衆院第1議員会館